

平成 31 年度・令和 2 年度 青梅市教育委員会 研究指定校

## 研究主題 「地域と連携した学校づくり」

青 梅 市 立 第 六 中 学 校

〒198-0003 東京都青梅市小曾木 4-2040

TEL:0428-74-5344 FAX:0428-74-5716

### 1 はじめに

本校は青梅市教育委員会の指定を受け、2年間の研究指定校となりました。本研究のためにご支援、ご指導頂きました青梅市教育委員会 岡田芳典教育長をはじめ、指導室の先生および成果収録にご協力頂いた地域の皆様方に厚くお礼申し上げます。

青梅市教育委員会 岡田 芳典 教育長 あいさつ

青梅市教育委員会研究指定校として取り組んだ研究の成果を、このたび発表されること心からお喜び申し上げます。地域団体の皆様の協力により、連携・協働した学校づくりが推進できるのだと改めて感じています。吉田 稔 校長をはじめとする教職員の方々、ご指導ご助言を賜りました講師の先生方、保護者、地域の皆様に厚く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

青梅市立第六中学校 吉田 稔 校長 あいさつ

本研究は第六中学校の教職員が教育目標を達成するために、地域との連携を大切にしながら学校づくりをしてきた実践事例を中心にまとめました。この研究を契機にさらに地域との連携を深め、「社会に開かれた教育課程」を展開いたします。今後ともご指導をどうぞよろしくお願い致します。

### 2 第六中学校の紹介

東は飯能、西は青梅坂に続く東西7キロ、南北6キロの細長い学区である。市街化調整区域であり、世帯数が増えず生徒数が減少している。親子三代で生活する家庭が多く、隣近所仲良く生活している環境である。四季折々の花々や動物などの自然環境にも恵まれ、地域の住民の学校教育への関心は高く、協力的である。生徒は真面目で素直であり、相手への思いやりの気持ちを大切にしている。行事やイベントなどにも一生懸命に取り組むことができる。また、数多くの地域の行事にも積極的に参加している。

### 3 第六中学校の教育目標

—豊かな人間性とたくましく生きる生徒の育成を目指して—

本校では、次の3点の資質・能力の育成を目指しています。



#### 優しい人になろう (人間関係形成力)

心身ともに健康で、自分の考えや気持ちをしっかり表現でき明朗で優しく思いやりの心をもつ生徒を育成する。

#### 正しい人になろう (課題解決力)

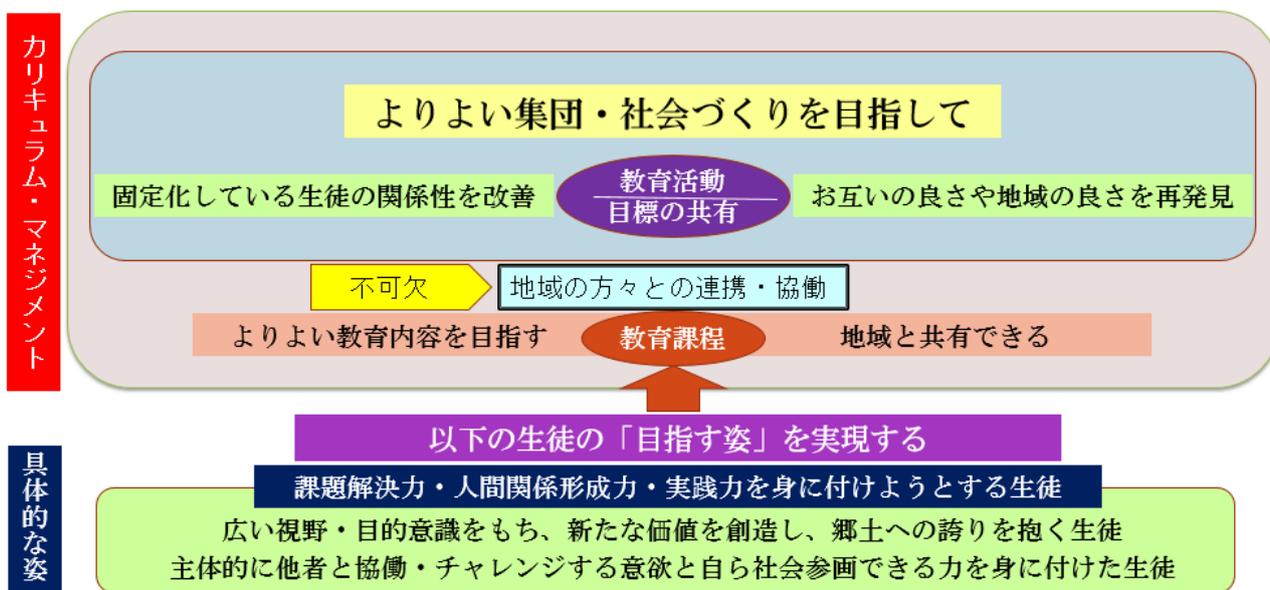
広い視野と国際感覚をもち、互いの人格を大切にすることを基本に、善悪の判断と責任ある行動がとれる生徒を育成する。

#### たくましい人になろう (実践力)

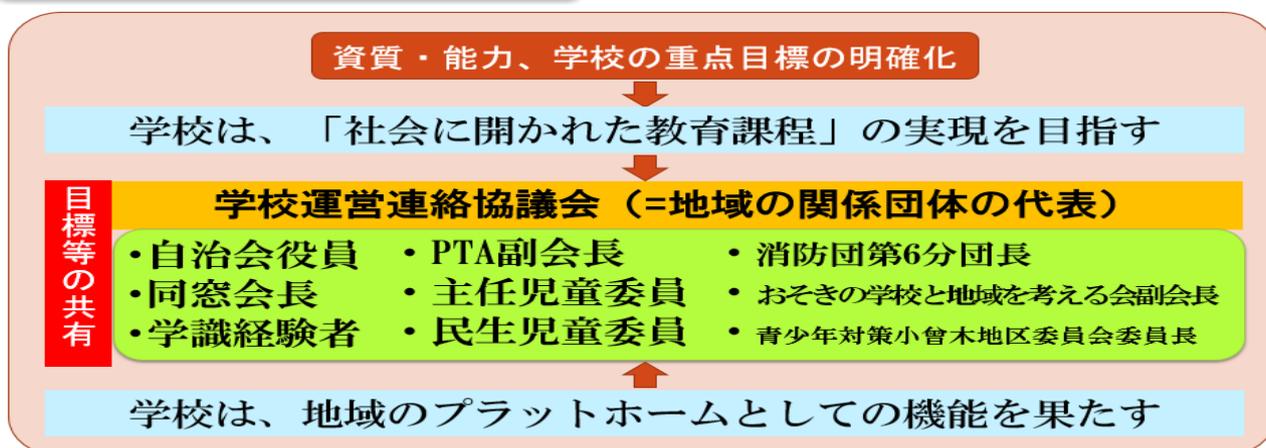
目標に向かって強い意志とたゆまぬ努力によって、主体的に心身ともに鍛え成長する生徒を育成する。

## 4 研究主題設定の理由

「生徒の目指す姿」の実現に向けて学校の教育目標を地域と共有し、開かれた教育課程のもとで、学校の教育内容をよりよいものにしていくための指導方法や指導内容の充実（カリキュラム・マネジメントの推進）のため。



## 5 地域との連携・協働のイメージ



本校は社会に開かれた教育課程の実現を目指すという考えを地域にも共有してもらい、地域とともに学校の目標を達成し、生徒の目指すべき姿の実現に取り組んでいる。一方で学校としても地域のプラットフォームとしての機能を果たしている。

### ・地域の関係団体について（順不同）

- 第6支会
- おそきの学校と地域を考える会
- 富岡自治会
- 第六中学校同窓会
- 小曾木自治会
- 青少年対策小曾木地区委員会
- 黒沢自治会
- 第6支会地域の安全をまもる会
- 小曾木市民センター
- おそきウインドアンサンブル青樹
- 青梅市立第七小学校
- 小曾木リサイクル協力会
- おそき保育園
- 小曾木地区文化祭実行委員会
- 消防団第6分団
- 青梅市ホテル保護指導員

## 6 地域との連携による実践事例

### 避難所開設訓練

- 教育課程上の位置付け  
総合的な学習の時間
- 育成すべき資質・能力  
課題解決力
- 連携する地域の団体  
自治会・消防団・民生児童委員  
小曾木市民センター・第七小学校

### 茶道体験

- 教育課程上の位置付け  
総合的な学習の時間=茶道体験  
部活動=茶道部
- 育成すべき資質・能力  
人間関係形成力
- 連携する地域の団体  
地域の専門家（外部指導員）  
小曾木地区文化祭実行委員会  
社会福祉法人博仁会

### 黒沢川清掃の体験活動

- カリキュラム・マネジメント  
学校の教育活動との関連を図る
- 育成すべき資質・能力  
実践力（協働して参画する力）
- 連携する地域の団体  
青少年対策小曾木地区委員会  
自治会

### ホテルの育成活動

- カリキュラム・マネジメント  
学校の教育活動との関連を図る
- 育成すべき資質・能力  
課題解決力・人間関係形成力・実践力
- 連携する地域の団体  
青梅市ホテル保護指導員  
自治会・第七小学校

## 7 成果と課題

### 避難所開設訓練

#### ○成果

開設訓練を通して車いすを利用する人の立場に立って課題を発見し、解決策を考える等、約 77%の生徒が課題を記述し、課題解決力の確実な育成につながっている。また、地域行事の活動を通して、地域の一員としての自覚を高めている。

#### ○課題

各教科等の主体的な学びや深い学びとの関連をさらに考察する。

### 茶道体験

#### ○成果

生徒へのインタビューの中の「お点前を学んで礼儀、挨拶、ルール、マナーが身に付いた」「日本文化を理解した」という言葉から人間関係形成力の向上が見られ、体験による学びが深まっている。

#### ○課題

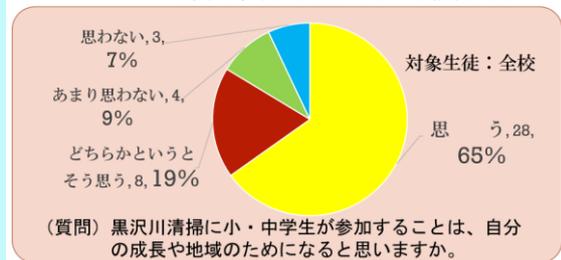
茶道体験は、茶道部中心の活動であるため、さらに学校全体で取り組めるよう教育課程上の工夫を重ねる必要がある。

### 黒沢川清掃の体験活動

#### ○成果

約 84%の生徒が清掃の意義を見出し、実践力を高めていることがわかる。

・約 84%の生徒が活動の意義を理解  
(令和2年8月30日のアンケート結果から)



- 当日の全校生徒数 43 名へのアンケート。
- 上記数字は生徒数。「%」の数字は占める割合。

#### ○課題

感染防止を図りながら継続的に活動していく工夫が必要である。

### ホタルの育成活動

#### ○成果

第七小学校と活動しながら地域の自然環境の課題や現状について小中の教職員が共通理解し、学校として地域とどのような連携が可能か、また児童生徒の資質・能力の向上に向けた地域活動の意義・内容について小中連携の立場で考える機会が得られた。

#### ○課題

現在、大人だけが活動しているため今後、児童生徒が活動できる内容を地域・第七小学校と協議し、教育課程に位置づける。

## 8 研究全体の成果と課題

### 成果1

地域と連携した体験活動を通して具体的な課題を発見し、解決策をその立場にある人への思いやりやおもてなしの心をもって見通したり対応したりする生徒が見られ、課題解決力・人間関係形成力が育成された。

### 成果2

小中連携において小学生から中学生にわたって継続した活動により、上級学年になるにつれて、地域の一員としての自覚が高まり、多くの生徒において協働して社会に参画できる実践力が向上した。

### 生徒の変容



### 課題1

地域と連携した活動が、教科等の主体的な学びとどのように関わっているのか、学び同士のつながりが必ずしも明確ではない。相互の教育活動における深い学びや課題解決への過程をさらに明確にする必要がある。そのために資質・能力をめあてに明記するなど、教科横断的に学びのつながりが見えるよう教育活動を可視化する必要がある。

### 今後の教育活動に向けて

### 課題2

学校・学年や学級・班などの集団としての身に付けるべき資質・能力の向上にも目を向ける必要がある。学年目標の系統化・構造化を図るとともに学校行事等の実施要綱にも身に付けるべき資質・能力の育成をめあてに入れて学校全体で共通理解を図る等『グランド・デザイン＝全体構想』を踏まえた教育活動を進めていく必要がある。

### 新型コロナ感染防止を踏まえたこれからの活動について

新型コロナ感染防止による影響を受けにくい持続可能な活動の在り方を検討する必要がある。そのためには地域と連携したICTの活用も考えられる。

## 9 ご指導いただいた先生方

文部科学省コミュニティスクール推進員 井上 尚子先生  
青梅市教育委員会 教育委員 稲葉 恭子先生  
青梅市立第一中学校 統括校長 儘田 文雄先生  
地域の各団体の皆様方



## 10 研究に係わった教職員・編集後記

### ○研究に係わった教職員 (★研究主任)

- ・校長 吉田 稔 (前年度校長 市川 晃)
- ・副校長 佐藤 正和
- ・主幹教諭 村木 孝明 渡辺 慎
- ・主任教諭 ★平林 知子 笹川真帆子 辻 慎一
- ・教諭 石寄 香織 田代 淑江 烏山 凌輔 大平 慧徒  
(前年度教諭 田村 拓巳)
- ・養護教諭 岩田 晶 ・非常勤教員 佐藤 正孝 (前年度主幹教諭)
- ・都事務 渡邊千佳子
- ・市事務 小柴 丈弘 (前年度市事務 小島 恵子)
- ・用務 古井 建司



### ○編集後記

本校では、2年間にわたり青梅市教育委員会研究指定校として、「地域と連携した学校づくり」を主題として研究を進めてまいりました。今年度は、学校と地域・保護者が一体となって、教育活動を推進してきました。次年度は、今年度の研究成果を基に、伝統的な地域行事を継続しつつ、新たな取組も実践し一層地域との連携強化を図ってまいります。



最後になりましたが、本校の校内研究についてご助言をいただきました文部科学省コミュニティスクール推進員井上尚子先生、講演の講師としてお迎えしました青梅市立第一中学校統括校長 儘田文雄先生をはじめ、多くの皆様に、心からお礼を申し上げます。 副校長 佐藤 正和